

第4回生理学研究所 Motor Control 研究会参加報告記

順天堂大学大学院医学研究科

生理学第一講座

須田悠紀

今年で4回目となる Motor Control 研究会が岡崎の生理学研究所で開催されました。4月より新たな研究室で博士課程1年目を迎えた私は、これまで行ってきた自身の研究発表の場として、また、最前線の運動制御研究を勉強できる場として、本研究会に参加させて頂きました。三日間に及ぶ同研究会には、これまでで最多の約140名が参加し、講演やシンポジウム、ポスター発表を通して、運動制御をテーマに活発な議論がなされました。

初日は伊藤正男先生による特別講演が行われました。運動制御における小脳神経機構研究の先駆けとなられた伊藤先生の講演ということもあり、生理学研究所等の外部からも多くの方々が詰め掛けられました。講演の終盤では、知識という情報が神経回路でいかに処理されるのかという議題が取り上げられました。特に、将棋の一流棋士になると過去の膨大な棋譜情報を利用することができるようになるといった例から、知識も繰り返し使うことによって無意識下で処理されるのではないかというお話を聞き、とても感銘を受けました。また、伊藤先生が非常に楽しく研究の話をされる姿を拝見し、改めて、研究に対する真摯な心構えの大切さを教えて頂いたように思います。

2日目、3日目には、多くの先生方によるシンポジウムが行われました。チュートリアルレクチャーでは、運動制御研究における計算論の基礎を講義していただきました。計算論に興味関心はあるものの、いざ計算式を目の前にすると固まってしまうのが常でしたが、3先生方は簡単な内容から丁寧に説明して下さい、計算論の面白さを教えて頂きました。また、二日間にわたって行われたシンポジウムでは、運動制御を様々な観点から考えるきっかけになったと思います。運動制御に関する様々のテーマを、各領域の最前線で研究されている先生方にお話し頂き、運動制御の全体像を明らかにするという趣旨で行われた特別シンポジウムでは、いずれの先生方も各研究領域の位置づけを明らかにして下さいました。その一方で、各領域の核心に迫る話になると、自分の知らない話題が多く勉強不足を痛感させられる時間でもありました。公募シンポジウムでは、ヒトとロボットの運動制御の対比や、脊髄や大脳皮質運動野におけるニューロンの機能解析についてお話し頂き、これまであまり馴染みのなかった工学分野への応用や解析手法の有用性について触れることのできる貴重な時間になりました。基礎的な研究が主である私にとって、いかにロボットでヒトの滑らかな運動を実現するのかという応用的な観点からの考え方はとても新鮮でした。

自身の研究発表の場であったポスター発表ですが、1分間のオーラル発表があった点をもとても印象深く感じました。これは、通常のポスターを前にした発表とは別に、全参加者の前で、自身の研究内容をまとめた一枚のスライドを一分間で発表するというものです。今

回が初の試みであったということですが、発表者にとっては研究内容を多くの人たちに最大限アピールできる点で、また聴講者にとっては、各発表者がどのような研究を行っているのかを知る機会となった点で、後のポスター発表時間を有意義にする効果的な試みであったと思います。実際、私がポスター発表をしたときには、参加者の皆さんが大まかな研究内容を前提に聞きに来て頂けたのでとても説明がし易く、いつも以上に内容の濃い議論を交わすことが出来ました。参加者の皆さんとの昼食や懇親会、2次会でも話題に事欠かなかった理由の一つが、ポスター発表時間の内容の濃さにあったと言えるのではないのでしょうか。

あっという間の3日間でしたが、私にとって新たな発見が多く、非常に楽しい時間を過ごすことが出来ました。参加者の運動制御研究への情熱を感じることができ、その想いが同研究会の一体感を生みだしていたように思います。来年は、より良い研究成果を持って参加できるよう頑張りたいと思います。最後に、研究会主催の運営に奔走して頂いた先生方、スタッフの方々に感謝を申し上げます。

* 本研究会のプログラムは、生理学研究所のホームページからダウンロード可能です (<http://www.nips.ac.jp/research/collabo/meeting/2010/>)。